The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	原亨吉名誉教授追悼号の刊行にあたって
Author(s)	和田, 章男
Citation	Gallia. 2013, 52, p. 1-2
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/26949
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

原亨吉名誉教授追悼号の刊行にあたって

2012年3月20日、原亨吉先生がご逝去されました。享年九十三でした。1955年から1982年まで26年間にわたって大阪大学文学部仏文学専攻で教鞭をとられ、定年退官後は天理大学教授、アリアンス・フランセーズ大阪理事長を歴任されながら、マラルメやヴァレリー、そしてとりわけパスカルの数学論のご研究において多大な成果をあげられ、日本からは恩賜賞、日本学士院賞、勲二等瑞宝章、またフランスからは教育功労賞（Ordre des Palmes académiques、Chevalier および Officier）、国家功労勲章（Ordre national du Mérite）など、数々の栄誉ある賞を受賞されました。一周忌を迎えるにあたり、原先生のご高論によって国際的に認知されるようになった『ガリア』の今号を、追悼号として刊行することになりました。大阪大学フランス語フランス文学会、パスカル研究会、並びに研究において原先生とお付き合いのあった多数の皆様から、原先生の学問に対する厳しい姿勢やお人柄についての心温まる追悼エッセーをお寄せいただきました。この場を借りてお礼を申し上げます。

「数学は詩のように美しい」—原先生にとって、詩と数学は相通じるものでした。あらためてご業績を見直すと、若い頃はマラルメ、ヴァレリー、アランなどを研究されており、パスカルの研究を始められたのは、阪大に赴任されてからです。それ以降はフランス詩について講義されながら、ご研究はすべてパスカルの数学論文および近世の数学史を扱ったものになります。詩と数学は宇宙のハーモニーを捉え、表現するものとして共通するものだったのでしょう。

先日、原先生のご自宅を訪ね、奥様から多くの貴重な話をうかがいました。旧制一高では、医学を目指しておられながら、蛙の解剖が嫌で哲学に転向されたこと、捕虜時代に菊池寛の芝居『屋上の狂人』で「狂人」役に抜擢されたこと、奥様が九州の女学校で学ばれていた頃、寄宿舎の舎監をされていて、英語教師でもあった原先生のお母様に見初められてご結婚されたこと、鎌倉時代のご友人たちとの交際、腹が空っぽであることも財布が空っぽであることも忘れて勉強に没頭されて体調を崩されたことなど、昨日のことのようにお話しくださいました。

最後のお仕事はケプラーの研究でした。筑摩書房編集担当の海老原勇氏からお聞きしたことですが、1975年に刊行された筑摩書房刊『数学史』において原先生が執筆された「近世の数学」の部を文庫化する企画があり、先生は7年ほど前からその改訂作業に専念されていたそうです。特にケプラーについての章を全面的に書き改められる計画で、2、3年前からケプラーの著作『新天文学』に取り組んでおられたのですが、最後の第59章、第60章の解釈に苦労されていたようです。神戸大学の三浦伸夫先生が原稿やメモを探されたのですが、残念ながら見つかっていません。

お父様は牧師でしたが、原先生ご自身は無宗教だったとのこと、生前には死ん

だら骨は海に撒いてほしいともおっしゃっていたそうですが、奥様としてはさすがにそれも寂しく、箕面の墓地公園にお墓を建てられました。墓碑銘には「宙」の文字を刻まれたとのこと。原先生の頭脳と魂は、天文学者ケプラーとともに、大宇宙に飛翔していたことでしょう。いずれそこにお骨を納められますが、今はまだ奥様のそばにおられます。

（和田章男）

以下に掲載する原亨吉先生の略歴および研究業績目録は、本誌第21・22合併号（1983年3月刊「原亨吉教授退官記念号」）所収の記事を改訂したものです。作成に際しては、大阪大学フランス語フランス文学会の柏木隆雄、永瀬春男、岩根久、武田裕紀の各氏、ならびに支倉崇晴先生（東京大学名誉教授）、三浦伸夫先生（神戸大学教授）、梶谷恵子さん（アンスティチュ・フランセ関西-大阪）から多大なご協力を賜りました。ここに記して厚く御礼申し上げる次第です。

続く原先生ご自身の論文「『パスカルの数学的業績』が書かれるまで」は、日本学術振興会刊『学術月報』第35巻7号（1982年10月刊）に収められたものです。まさに数学的な秩序を思わせる正確無比な文章のなかに、原先生のご研究の具体的な内容およびその緻密な方法のみならず、先生の学問に対する誠実なご姿勢を余すところなく伝える佳編です。転載をご快諾くださった原先生のご遺族と日本学術振興会に心からの謝意を表します。

原先生がお受けになった勲章や賞状の写真は、先日ご自宅を訪ねた折に、奥様の許可を得て撮影させていただきました。ご厚意に感謝いたします。

（山上浩嗣）